

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## 「枯れ枝の支柱」と「わびるる」と

年長児さんの部屋の前に、素焼きの植木鉢が並んでいます。植えられているのは、ホウセンカ、フウセンカズラ、アサガオの3種類。毎朝、天気の良い日は、登園して朝一番に、子どもたちは水をあげます。小学校でも同じような光景をよく見かけます。・・・でも何かが違う・・・そう、植えているものが個人によって違う。そして、蔓を巻き付かせる支柱が、裏庭に落ちていたであろう長短混ぜこぜの「枯れ枝」なのです。青いプラスチック製の栽培セットに植えられたアサガオが、一直線に並んだ光景とはかなり違います。（私も、かつては何の疑問もなく栽培セットを買って与えていました。）アサガオが枯れ枝にしがみつくと様は、実に風情があつて、私はその佇まいに「わびさび」さえ感じます。

また、年長児さんが育てているトマトやキュウリは、これでもかと突き刺さっている枯れ枝の支柱に身を任せることができます。もがくように上へ伸びようとしています。昨日は、防鳥ネット（？）の重さに耐えかねて、トマトの枯れ枝の支柱が倒れそうになっていたのに気付いた男の子が、何とかしようと一人立ち向かっています。（さあ、これからどうするか楽しみです。）

さて、附属幼稚園では、なぜ、このような栽培の仕方をさせているのでしょうか？先生たちの手抜きやいじわるでしょうか？そんなはずはありませんね。どの植物を育てるか、決めたのは誰でしょう。支柱を拾ってきて立てたのは誰でしょう。防鳥ネットをかぶせたのは誰でしょう。・・・そうです。子どもです。



自分で選んだものを育て、植物の様子から、必要なお世話に気づき、どうすれば良いか自分で考え、そして行動する。気づかない子には、声を掛けて気づきを促したり、提案したりはしますが、指示的な言葉は口にしません。きっと「自分の力で育てている」気持ちを持たせたいのだと思います。どうでしょう。日々の中で、子どもが考え行動する機会を奪ってはいませんか？「困り」のない快適な生活を送らせすぎてはいませんか？是非、同じスタンスで一つでも二つでも・・・。

## ふたりの距離にビビビ!

### 【3歳のふたり】

4月の頃、寄ると触ると掴みかかっていた。ダンゴムシが二人をつなぐ。

肩を寄せ合う

ふ・た・り。



### 【5歳のふたり】

お休みしていた男の子に  
笹飾りを教える女の子。

黙って、じーっと見守る。  
言葉を交わさない

ふ・た・り。



### 「楽しみにしています！」

学級担任として、毎年手書きの「学級通信」を出してきました。通信は、自分にとって「自己表現」の場でした。とにかく自分の人となりや考えを伝え、お家の人へ知らせたい欲しかったのです。私と違う考えの人もいたこと、うれしかったこと、感動や反応は、本気で書くと、毎回エネルギーが湧いてくるのを感じたものです。

校長（園長）となって、また通信を書いています。今も「楽しみにしています」の一言が、たまに嬉しく感じます。まずは10号！これからもご愛読ください。